



■会員の住所変更について

本誌は、学生が学部に届け出ている保証人住所宛に送付しています。保証人住所を変更される場合は学生本人による手続きが必要です。

学びステーション（衣笠所属の方は、所属学部事務室）まで学生証を持参の上、手続きするようお子さまにお伝えください。

※最近、立命館や関係団体等の名刺を利用した悪質なビジネス等が横行しております。父母教育後援会は、会員の照会を学生には一切行っておりませんので、くれぐれもご注意ください。

父母教育後援会ホームページのご案内

<http://www.ritsumei-fubo.com>

立命館大学のホームページからは…
「保護者の方」をクリック

R 立命館大学父母教育後援会だより 2016年度 冬号
2016年12月発行 立命館大学父母教育後援会
〒604-8520 京都市中京区西ノ京朱雀町1 Tel.075-813-8261 Fax.075-813-8262

巻頭特集①

立命館大学を築いた人々
未来を築く人々

巻頭特集②

立命館大学学園祭2016
Halloween+R ~いいから遊びにきな祭~



祝・イグノーベル賞受賞
知への扉 東山篤規教授

2016年度
冬号

立命館大学
父母教育後援会だより
Parents Association of Student Education Assistance Newsletter



巻頭特集①

P3 立命館大学を築いた人々
未来を築く人々



巻頭特集②

P11 立命館大学学園祭 2016
Halloween+R ~いいから遊びにきな祭~

P14 ... ゼミナール訪問

P18 ... 部活動&サークル Watching

P20 ... 知への扉 vol.3 文学部 東山 篤規教授
「世の中に役に立たないことなんて
一つもありません。
役に立たない研究もないんです」

P22 ... 父母教育後援会の支援が役立っています

家計急変奨学金が
学生たちの未来を守っています

P24 ... BKCスポーツ健康コモンズ
学生の声を活かした新施設をウォッチング

P25 ... 2016年度夏号でいただいたアンケートの結果やご意見
皆様のお声が誌面作りに役立っています

P26 ... 父母教育後援会からのお知らせ



News 白川静先生没後10年にあたって

立命館が生んだ文化勲章受章者・白川静先生の研究は、漢字を通して東洋の背景や精神を明らかにしたものでした。その目的は、近代までの共通文化であった漢字の地位を復活させ、東洋を回復すること。「衰えている漢字を復活させれば、漢字を使い続けてきた東洋の国々も復活できるはず」と考えたのです。白川先生のご逝去から10年、立命館大学白川静記念東洋文字文化研究所は国際シンポジウムや古代文字の「白川文字フォント」無料公開(近日予定)、全国数箇所での「白川静展」など、記念事業を開催する予定です。

※詳細は、「白川静名誉教授没後十年記念サイト」をご参照ください。
<http://www.ritsumei.ac.jp/features/shirakawashizuka10/>



西園寺公望と中川小十郎は立命館大学創設に尽力した人物です。
彼らの建学の精神を多くの教育者や学生たちが守り伝え、現在もその教えを大切にしながら、
様々な分野に卒業生たちが羽ばたき活動しています。

立命館大学を築いた人々 未来を築く人々

立命館大学を築いた人々 未来を築く人々

東の東京帝国大学に対し、西の雄として創設された京都帝国大学。それに関わった西園寺公望と中川小十郎。そんな彼らが創設した、もう一つの大学が、立命館大学です。

西園寺 公望

教育に尽力した最後の元老

1849年徳大寺公純（きんいと）の次男として生まれ、清華家の西園寺家を継いだ。秀才青年公卿として注目を浴び、政治家となつても第一等の教養人として知られる。二度にわたり内閣を組織し、最後の元老といわれる。



自由で温かみのある 教育を京都から発信

東京大学（のち東京帝国大学）が1877年（明治10年）に設立されたのち、1897年（明治30年）に西の最高学府として二番目の帝国大学、京都帝国大学が設立されました。当初、東京帝国大学は政府の高官官僚養成のための学校という感もあり、文部大臣だった西園寺公望は自由で政治権力と一線を画した大学の必要性を感じ、京都に「自由の学風」をモットーとした京都帝国大学の設立を実現しました。京都帝国大学で中川小十郎は初代の大学書記官（現在の事務局長のようなもの）を務め、大学業務に携わりました。少人数制のゼミナールや、教員と学生との対話を重んじるなど、特徴的な教育スタイルを築いていきました。そんな時代の中、「勤労青年にも等しく学びの場を与えたい」と、中川たちが1900年（明治33年）に富井政章を校長とし、私立京都法政学校を設立。中川は学監として学校の運営に尽力しました。



中川 小十郎

立命館大学創設の父

1866年、丹波国桑田郡馬路村（現在の龜岡市馬路町）で生まれる。戊辰戦争では中川の父が西園寺公望の山陰道鎮撫に随從しており、西園寺家との縁も深い。

check

一度は途絶えた立命館？

1869年（明治2年）に、当時まだ19歳だった西園寺公望が、京都御所の邸内に私塾・立命館を設置。しかし、学生の高談放論が危険とみなされ翌年には京都府庁の差留命令が出され立命館は、その活動が途絶えてしまった。

「立命」とは、孟子の盡心章に由来する言葉で、[立命館]は人間がその本分を全うするための場所という意味を表している。

1869年(明治2)	私塾・立命館を西園寺公望が設置
1891年(明治24)	中川小十郎、帝国大学へ進学
1895年(明治28)	中川小十郎、西園寺公望文部大臣の大臣秘書官に就任
1900年(明治33)	私立京都法政学校設立が認可。清輝楼にて開校式
1901年(明治34)	校舎が清輝樓から広小路新校舎へ移転
1903年(明治36)	専門学校令に準拠し、私立京都法政専門学校改組
1904年(明治37)	私立京都法政大学と改称
1905年(明治38)	西園寺から「立命館」の名称継承を許諾される
1913年(大正2)	財団法人立命館設立

立命館大学の前身 私立京都法政学校

京都帝国大学の設立に活躍した中川でしたが、エリートや富裕層のためだけではなく、熱意のある勤労青年たちにも等しく学びの機会を与え、社会に開かれた学校を創りたいという情熱を持ち続け、ついに法科専門の夜学として私立京都法政学校を設立。

類を見ない構成で注目を浴び、何より特徴的だったのが専任教授をおかなかたこと。教授陣はほとんど京都帝国大学法科大学が担当していたため、京都帝国大学に行かずして一流の講義を受けられる貴重な学びの場でした。中川は、「大学の講義をその学生以外に公開すること」に誇りを持ち、それを実現させたのです。鴨川河畔にあった清輝樓の2、3階を仮校舎としてスタートしましたが、1901年（明治34年）に寺町広小路に土地を取得して移転しました。



1912年（明治45年）の卒業生記念写真。



料亭として親しまれた清輝樓。



寺町広小路に移ってからの私立京都法政大学の正門。

check

立命館の昔むかし

1900年（明治33年）に私立京都法政学校設立が認められ、清輝樓にて開校式が行われていた年の内閣総理大臣は伊藤博文でした。その後西園寺公望が内閣総理大臣を務めました。立命館が財団法人化された1913年（大正2年）は大正の時代に移り、トンボ鉛筆や森永ミルクキャラメルなどが発売され、翌年には東京大正博覧会が開催され、日本初のエスカレーターが披露されました。

あの頃の
京都



四条通、1895年（明治28年）に日本初の市電が開通した。
京都府立総合資料館
京の記憶アーカイブより
石井行昌撮影

教育に情熱を持ち続けた 中川小十郎の魅力

NHK連続テレビ小説「あさが来た」に登場する山崎平十郎の役回りは、中川小十郎に近いと言われています。生誕150年を迎え、近年研究が進んでいる中川の知られざるエピソードや思想に迫ります。

人との繋がりが導いた 教育への道と人生

中川は西園寺公望文部大臣の大臣秘書官や、京都帝国大学の初代の大学書記官などを務めながら、多くの人の繋がりの中で、常に青少年に教育の機会を平等に広げる努力を惜しませんでした。1897年（明治30年）頃、廣岡家の廣岡浅子は成瀬仁蔵の日本女子大学校設立を支援しており、中川も上京してきた成瀬仁蔵と麻生正蔵（二代目日本女子大学校校長）を東京の自宅に寄寓させたり、創立委員会事務幹事長として大学設立に協力しました。人との繋がりを大切にし、自由に学問を追求する環境を整えようとした中川の思想は現在も立命館大学に受け継がれ、基礎演習やオリター制度といった学生と教員、先輩と後輩が繋がる教育へと導かれています。

人々の期待を背負い 実業界でも手腕を発揮

前述の廣岡浅子は、NHK連続テレビ小説「あさが来た」のモデルとなった人物で、廣岡家の再興に奔走した実業家。再興の人選を成瀬仁蔵に依頼した際、成瀬が推薦したのが中川でした。中川は廣岡家（屋号は加島屋）が経営する加島銀行、廣岡家鉱業部理事に1898年（明治31年）に就任し、再興に尽力し実業家としての手腕を發揮。この時、目にした廣岡家の勤労青年たちに、教育の機会を与えるべきだという思いが、京都法政学校という新たな学校の設立へのきっかけとなりました。廣岡家再興という大変な使命を担いながら、この時期に当時京都にあった朝日生命保険会社本社の一室（廣岡家経営）に、京都法政学校創立事務所を設置したのです。



加島銀行（土佐堀より撮影と伝わる）。廣岡家は大阪では10人両替の一つに入る由緒深い家柄であり、廣岡浅子は大同生命創業者の一人でもある。



夏目漱石との記念写真（左から二人目が中川、三人目が夏目漱石）。彼らは東京府第一中学での同窓生であった。中川は「彼は、必ずしも非凡な人物になるものとは見へなかつた、我輩は寧（むし）ろ変な奴だくらゐに思つてゐながらも、互いに気が合つたので親しく交際していた。大方彼もまた我輩をみて田舎丸出しの変な奴ぐらゐに思つてゐたであつたろう」と書き残している。

生誕150年

革新的なシステムで 多くの学生へ学びを開く

1901年（明治34年）に認可を得てスタートした校外生制度。これは遠隔地居住者など、登校して聴講できない者も、法律や行政、経済に関する高等学術を学ぶことができる、いわば通信教育制度でした。校外生は毎月講義録で勉強し、3年間の講習を終えると校友になることができ、校内生の編入試験を受けることも可能でした。大学内には出版部が設置され、校外生のための講義録を発行しました。学ぶ意欲があつても立地的に不利な者や、時間を取ることができない勤労青年にとっては画期的なシステムだったと言えます。



講義録は1902年（明治35年）に発行が始まり、定価は70銭だった。

check

約2万点の史資料が語る 中川小十郎の功績と魅力

立命館大学の創立者である中川小十郎の実像が、立命館史資料センターの約10年にわたる史資料整理と研究によって、実業家としての顔など、少しずつ新たな事実と共に分かってきました。

面白いエピソードも数多く、「例えば、廣岡家では私設の寺子屋のような場所で教育を行っていました。実は中川は、ここで先生として教えていたこともあり、教育者としての顔も分かってきました。この施設は庶民が学べる場所ではなかったのですが、廣岡家で働く子供達が学べる夜学を中川が開設しています。また、中川の叔父は立命館の財団法人化にあたって多額の寄付を行い、西園寺の名を冠した基金化を指示するなど、中川家と西園寺家との深い縁を感じさせます」と藤野さん。まだまだ研究は続いており、また新たな中川小十郎の魅力が発見されるかもしれません。



藤野 真粧
立命館大学非常勤講師
立命館史資料センター調査研究員



生誕150年を機に、学園では講演会や展示会を開催。写真のような史資料センターが所蔵する貴重な資料も展示され、多くの人々が観覧に訪れます。



史資料センターが所蔵していた養家からの資料の他に、龜岡の生家に残されていたものが約1万点追加されたことも研究が進んだ理由の一つ。江戸時代のものなども保管されています。

立命館の未来を築く人々

～社会で活躍中の立命館卒業生をクローズアップ～



山中 未久さん
2015年スポーツ健康科学部卒業 立命館大学 スポーツ強化オフィス勤務
立命館大学相撲部のコーチ兼競技者として現在も活躍中。世界大会2位から、優勝を狙う。

「立命館は、未踏の世界へ後押ししてくれます」

女子相撲から始まった 孤軍奮闘の歩み

女子相撲軽量級の山中さんは、想像以上に小柄で愛らしい女性ですが、世界大会でも入賞を果たす日本女子相撲会最強とまで言われる強者。でも、子供の頃から保育園に行くにも母と離れるのが嫌で、毎日泣くような内気な性格だったそう。「初めて保育園対抗の相撲大会で、男の子や自分よりも大きい相手に勝つ事が嬉しかった。小学生からは地元のクラブに入って相撲の世界にはまりました」。しかし、高校時代は相撲部に女子部員は一人、大学でも同じ状況で辛い思いをしたこともあったそうです。「でもスポーツ健康科学部に在籍して、競技者やそれを理解する人たちに囲まれ、知識も精神的にも得るもののが大きかった」と、相撲に打ち込める環境が立命館大学にはありました。

後輩たちのためにも 大学から新たな道を切り開く

「女子相撲は未だプロがなく、マイナーな競技です。だからこそ結果を出し、少しでも前に進みたい」と、卒業後の進路を模索。「世界ではママアスリートもいるのに、日本では大学卒業後に辞めてしまう人が多い。私は競技を続け、女子相撲を広げ、新たな道をつくりたい」と選んだのが、立命館大学の職員として働きながら競技を続け、コーチとして後輩を指導する道でした。こうしたアスリートは大学初でもあり、勤務や練習時間などの調整や規範は、双方が検討しながら決定していくったそう。「私が失敗したら後進の道が閉ざされます。でも結果を残せば、後輩たちに道が開ける」と語る山中さんの姿は、頑張る若者に学びへの道を開いた中川小十郎の精神が宿っているようです。



足立 淳さん
2007年経営学部卒業 株式会社サムタイムズ 代表取締役 立命館大学を卒業後、株式会社リクルートに入社。
その後、株式会社サムタイムズを起業し「リノベーションラウンジ東京」を主宰。http://www.r-lounge.jp

「ビジネスアイデアを模索するのが楽しみです」

大学でさらに育まれた 起業への情熱

足立さんの会社では家の購入を希望する顧客に、不動産仲介と物件のリノベーション（改築）のコーディネートを行っています。父親と同じく、起業する夢を抱いて大学でも企業家養成コースに進学し、卒業後すぐに起業しようとしたほど。「でも父のアドバイスで就職し、不動産関連の業務に携わったのが今の仕事のきっかけです」。この時、足立さんの興味を引いたのが、中古物件のリノベーション。でもリフォーム会社選びや、業者へのクレームなど、問題も多いことに気付いたそう。「大学時代に学んだ企業分析が習慣になっていて、何がメリットで、問題か、どう解決するかをすぐ考えてしまう（笑）」と、物件購入者と業者の架け橋となる会社を設立することを決意しました。

メリットを独占せず 共に発展する道へ

足立さんが仕事上、大切にしているのがコミュニケーション＝面談。顧客に紹介するリノベーション会社を一社に厳選しつつも、成約率は100%だそう。「リノベーション会社にむやみに相見積りを取ると、無駄な労力や人件費がかかるので、面談で顧客にぴったりの会社を厳選してコストをカットしています。物件の仲介手数料も顧客の負担になり過ぎないように、調整も行います」と、足立さんの経営方針は、利益やメリットを独占しないのが特徴的です。現在の仕事と同時に、30年後にやりたいビジネスも頭の中で構築中とか。「大学時代もベンチャービジネス論などが面白かったし、ビジネスアイデアを考えるのが好き」と、起業魂は学生時代のまま健在です。



平野 桃子さん

2012年産業社会学部卒業
大船渡市役所 災害復興局・復興政策課勤務
防災団体移転促進事業を担当して3年目。安全な場所への住居の移転を促進している。

「多様な学びがみんなの幸せに繋がると嬉しい」

大学の学びや経験が
今の仕事につながる

人との関わりで育んだ
周囲への優しい視点

平野さんは立命館大学に入学した時、「一種のカルチャーショックを受けました。通っていた高校はいわゆる進学校で、似たような学生が集まっていましたが、立命館大学は全国から様々な背景を持つ人が来いでいて多種多様。最初は戸惑いました。でも、お陰で多くの人と関わり、人間関係を学びました」。大学では福祉を専攻。少年非行問題などを学ぶうち、将来の進路に警察官を志望するなど、人をサポートすることに興味を持った平野さん。「大学で学ぶうちに、人それぞれの頑張りや価値観を理解できるようになりました。今まで深く考えたことはありませんでしたが、頑張っている人を支援することが、私の生き甲斐に繋がっているのかもしれません」。

3回生時に他大学の友人と共に参加した東日本大震災のボランティアで、約1週間大船渡市に滞在した平野さんは、「このまま終わることができない」と感じ、最終的に大船渡市役所への就職を決意。福岡県出身の平野さんの献身的な働きに、御礼を述べる地元の人も多いそうですが、「私は被災した人々のためだけではなく、自分で望んで仕事をしていますし、大学時代に学んだことや望みが形になったと思っています。被災した人々の生活再建を支援する仕事をして5年目の節目を迎えたので、将来に向けて自分の人生や仕事を、また少しづつ考えたい」。弱い立場の人々を思いやりながら、その力になりたいと頑張る彼女の活躍が今後も楽しみです。





♣ 初の3キャンパス合同の学園祭は 誰もが楽しめるお祭りムードを演出

昨年度の学園祭は、各キャンパスごとに分かれて開催されました。今年は初めて学生たちが一堂に会し、今までにないスケールでスタート。開催日はハロウィン前夜ということもあり、会場にはハロウィンにちなんだ装飾も施され、フェイスシールが配られるなど、お祭り気分を盛り上げる演出も。

キャンパスには3つのステージが設置され、各所では様々な演奏やパフォーマンスが披露されたほか、館内では団体やサークルが日頃の活動の成果を発表するワークショップや展示が行われました。模擬店も出店され、全部を見て回るには一日掛けても足りないほど充実した内容で、大いに盛り上りました。

♥ 模擬店チケット配布も キャンパスツアーも盛況

「学生飲食模擬店用チケット(500円分)」を今年も受付で引き換え、約120店の飲食模擬店でご利用いただきました。キャンパスツアーでは、学生スタッフが自分の体験を交えながら学内を案内し、参加された方は学生たちの充実したキャンパスライフを体感されたようでした。



学生スタッフによるキャンバスツアーは、混雑する会場内に誘導するため、学生たちが安全を確認しながら案内。



2016年学園祭実行委員長 金山 一貴さん 法学部3回生

学園祭は、やはり楽しめることが大事だと基本に返りました。初めて全キャンパスの学生が集うので、調整には苦労しましたが、学生はもちろん地域の方や保護者の方々ともみんなで思い切り楽しみたいという気持ちで企画しました。



今回のロゴキャラクターは、ハロウィン仮装したおばーとりっしゅー。当日、キャラクターのフェイスシールが配布され、参加した子供たちにも大人気でした。



保護者の方々にチケット交換を行う学生たち。



水に潜む雅楽 -流れと深さ-

雅楽会のワークショップは、独特の装束の着付け体験なども行われ、非日常の世界を体感できる内容。演奏も行われ、美しい笙(しょう)の音色が響くと、館内の人々も足を止めて雅楽の世界に浸っていました。

physics world ~電気だって物理だもん!~



子供たちも興味津々で家族連れが多くなった展示。テスラコイルの放電の様子や、無線送電などの実験が行われ、突然光り出す蛍光灯に小学生もびっくり。



秋の立命館寄席 in BKC

毎年恒例の落語研究会による寄席は、今年も満員御礼。保護者の方々にも好評で、落語だけでなく、漫才やコントなども行われ、会場は笑い声に包まれました。



ミニ鳥人間コンテスト 機体展示

室内展示とともに行われた屋外での機体展示は、実際に乗り込むことができるため大人気。展示された機体は2年前の大会で実際に飛行したもので、記念撮影する人も多く見られました。



マジックの館

普段から地域のイベントにも招待されるなど人気の奇術研究会マジックブレイヤーズ。この日も彼らのマジックを一目見ようと、行列ができるほど。各テーブルでマジックが披露されたたび、歓声が上がっていました。



ゼミナール訪問 vol.33

衣笠キャンパス
映像学部

北原 聰ゼミ



ゼミ生
voice

ゼロから創造できるクリエイターを輩出

木野 岬平さん

映像表現の可能性を学び、「擬人化された動物の演出とその表現」について研究中。将来の夢はハリウッド映画などの制作に携わることです。

高田 莉々子さん

ゼミで様々な場面で使われる3DCGを学び、あらゆる面で社会に貢献したい。多くの人に感動と時間を与えるクリエイターになりたいです。

八田 友也さん

音楽制作の付属物としてCGを始め、CGゼミを選択しました。フルCGスカイアクションについて研究し、卒業制作を進めています。

平田 真央さん

3DCGに興味があり、卒業制作として動画を一から制作するためゼミを選択。研究内容は「CGによるアリティと非現実の表現手法」です。

古川 泰至さん

フォトリアルなCG制作を念頭に置き制作。日本人の優秀なクリエイターを海外に進出させ、映像の楽しさを世界一だと周知させるのが夢です。

金子 裕貴さん

現実世界とは違う3次元の表現は、現実に近いもの、CGならではのものなど可能性が広い。その中で、自分らしい表現をみつけたいと思います。

森本 真由さん

ディズニーやピクサーのアニメーションが好きで、制作に携わりたくてCGゼミを選んだ。将来は海外で仕事ができたらいいなと思っています。

山口 明日香さん

CGやモノをつくることが好きだったのでこのゼミを選択。将来の夢は、人に面白いと感じてもらえるものづくりをすることです。

依田 智徳さん

ゼミを通して私が研究テーマとしたものは、人の心を動かす映像作りです。将来、人に感動を与える作品作りを行うことが私の夢です。

米山 一美さん

ゼミではセルルック3DCGと2Dアニメを組み合わせた作品を作成しています。日本独自の技術を活かしたアニメを作りていきたいです。

李智粹さん

自分の考え方や話をアニメーション作品を通して伝えたい。楽しい作品も好きですが、創作行為が持つ意味について探求していきたいと思います。

赤坂 さやかさん

プログラミングやメディアアートにも興味がありました。個人指導でスキルを伸ばせるという点に魅力を感じて今のゼミを選びました。

北出 歩実さん

CGの表現力を高めたいと思い、このゼミを選びました。現在、アニメーションを勉強中で、3DCGモーションデザイナーを目指しています。

山本 薫さん

自分の思い描くものを形にする方法を習得したい。将来の夢は、映像作品を支えられるような仕事か、映像を作る人を支える仕事に就きたいです。

総合大学だからこそできる クリエイターの育成に尽力

北原教授は映像学部創設にも携わった教員の一人で、専門は3DCG。3次元コンピューターグラフィックスのこと、ゲームや映画など様々な分野で使われている技術の一つ。「世界の全てを自分一人で生み出せる。いわば世界の創造主になれる」ところがCGの魅力だと語る北原教授は、会社員時代に独学で3DCGの技術を習得し、世界的なコンペティションで5年連続入賞を果たしたほどの実力派のクリエイター。だからこそゼロから全てを作り上げ、社会で活躍できるクリエイターがどういうものなのかということを熟知されています。「ここでは技術を習得するだけではありません。人とどうコミュニケーションを取り、3DCGでどう表現して演出すか、総合的な能力を持つ人材を育成しています。言われたものを作るだけのオペレーターではなく、学生たちは幅広い視野と知識を持つクリエイターを目指しているんです。そのため、総合大学で教育する意味は大きい」。将来、映画の聖地・ハリウッドで活躍したいと頑張っている学生も多く、いつの日か映画のエンドロールに卒業生の名前が掲載される日が来るかもしれません。



北原 聰 きたはら さとし
映像学部 教授

1983年南山大学外国語学部を卒業後、株式会社ナムコや株式会社セガ・エンタープライゼスで勤務。2007年立命館大学情報理工学部、2008年から映像学部の教授を務める。ユニバーサル映画「ミスター・ベーブル」のアシスタント・アートディレクターや、愛知万博でのプロジェクトに参加するなど、第一線で活躍するクリエイターとしても知られている。



「デジタルな世界ですが、自分で絵を描けることは必須」。北原教授はゲーム制作会社や映画会社で、キャラクターのデザインなどを行っていたクリエイターで、これらはかつて企画したデザインの下絵。



北原教授の指導は熱心かつ厳しいことでも知られており、基本的な生活態度やコミュニケーションルールなども注意。ゼミではタイマーを持って時間を測りながら、マンツーマンで指導を行う。



学生たちの作品をまとめたもの。技術の進歩とともに、学生たちの作品もリアルになっているのが分かる。



アメリカで本場の空気に触れ刺激を得るために、毎年教授が2回生に向けて企画する研修ツアーも好評。

ゼミナール訪問 vol.34

大阪いばらきキャンパス
経営学部

佐藤 典司ゼミ



ゼミ生
voice

デザインの力で社会を動かす

愛須 文乃さん

デザインが人に及ぼす影響が日々進化し続ける中で、空間デザインが人の心理をどう変化させるのかに迫っています。

芦田 佑生さん

ある特定の人や集団を応援しているファンの消費行動について、2つの場面に分けて研究しています。

安藤 詩織さん

新入女性社員のスーツ着装による色彩効果や評価イメージが20代と40代以上ではどう違ってくるか調査しています。

安藤 莘さん

安藤忠雄さんが設計した作品が、その地域にどのような影響をもたらしたのか、自分の足で訪れて研究しています。

松本 菜摘美さん

ホテル業界のコモディティ化に注目し、成功企業やアンケート調査から今後あるべきホテルの経営方法を研究しています。

黒田 基起さん

日本だからこそできるデザインを世界に発信するために、装束のデザインと今後の日本のデザインを研究しています。

神足 和暉さん

自動運転車と自動車の使い分けについて、機能的な面から自動運転車社会が訪れるのかについて考えています。

阪部 治紀さん

近年、話題となっている自動運転。それは私たちに受け入れられるのか、どうすれば受け入れられるのかを考えています。

田中 敦子さん

日本と北欧のライフスタイルの同異点と、両者で北欧デザインが好まれる理由の関連性について調べています。

村山 麻依子さん

自動運転車の登場により、人の外出の機会が増加する事について、文献や取材を通して研究しています。

千葉 文乃さん

空き家問題に対して、リノベーションという方法でどこまで解決していくか研究しています。

長谷部 里紗さん

サービスデザインの分野から見る新しいメディアの形について、現代人の意識調査しながら研究しています。

馬場 悠さん

結婚式の今後について、社会情勢と共に変化した価値観を辿りながら自分なりに新提案をしようと考えています。

日永 菜摘さん

衰退していく商店街。そこへ人を呼び込み活性化させるため、自動運転車をどう活用できるかについて考えています。

[なぜ?]と[寄り道]を大切に デザインの価値を研究する

電通でも多くの成果を上げてきた佐藤教授は、いわば広告やデザインマネジメントのプロ。現在も、滋賀のマザーレイクプロダクツ [KIKOF (キコフ)] のプロジェクトに関わるなど、第一線で活躍されています。「人々は生活中でデザインに影響されています。商品や建築など、好きか嫌いか、快適か不快かなど、デザインもその決定に寄与している。でもその費用対効果は計測が難しく、例えば商品が売れるなど実績が上がると、価値として認められます。学生たちはそのための手法や関係性を学び、研究しています」。そうした学びのためにも、教授は情報過多の社会において、「いろいろな情報を当然のように耳から素通りさせるのではなく、なぜ?と考えることや、寄り道してみることが必要。そこからアイデアが生まれる」と、学生たちに伝えています。ここで培ったデザインとの関わりを思考する力は、広告代理店などに就職するためだけのスキルではなく、様々な分野で活かせるため、卒業生たちからも「社会に出てから学んだことが納得できて、活かせている」という声が多く寄せられるそうです。



佐藤 典司 さとう のりじ
経営学部 教授

早稲田大学政治経済学部経済学科卒業。
1980年株式会社電通入社、プランニング
やマーケティングを担当。その後、98年より立命館大学にて、デザインや情報の価
値を中心とする価値創造におけるマジ
メント論を研究。「デザインの経済学」
(PHP)「情報消費社会を勝ち抜くデザ
インマネジメント戦略」(NTT出版)など、
著書も多数。



教授の最新著書、[複
素数思考とは何か。]
(一般財団法人 経済
産業調査会出版)



滋賀のマザーレイクプロダクツ [KIKOF (キコフ)]
は、2015年度ADC賞のグランプリを受賞し、年鑑に
掲載されている。
<http://shiga-motherlake.jp/news/528.html>

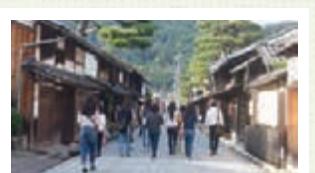
興味を引くテーマで デザインとの関わりを分析

この日のゼミでは、学生が自分たちの論文テーマを発表し、その分析方法などについて意見交換が行われていました。例えば、環境の異なる北欧デザインが日本で人気なのはなぜかを考察する【異文化間のデザイン】や、【安藤忠雄建築がもたらす地域への影響】など、テーマをめざして興味を引く内容で、デザインから様々な分野の分析ができることが分かります。

こうした各人の研究だけでなく、ゼミには行政などから依頼が寄せられることも多く、課外活動として学生たちがプロジェクトに参加することも。現在は近江八幡市の依頼で、地元の活性化のためのプロジェクトに4回生が取り組み、彼らの活動が実際に社会に貢献しています。このような活動を通して、考えて実行する力を養っています。



ゼミでは教授も交えながら、活発な意見交換を行う学生たち。自らの意見や分析を的確に主張する姿が印象的。



現地説明役である商工会議所の方
の話を聞きながら、近江八幡市のブ
ロジェクトのための現地調査を行う
学生たち。

部活動&サークル Watching vol.09

体育会相撲部



想像以上に肩と膝に負荷が掛かる競技のため、ケガをしないことも大切。



個人で世界大会へ出場するなど、女子の実力は全国的にも有名で、山中未来さんも競技者として在籍（p8参照）。



竹内 肢さん
相撲部男子 主将
産業社会学部4回生



福葉 映美さん
相撲部女子 主将
スポーツ健康科学部4回生

心技体を胸に男女で高みを目指して切磋琢磨

部員たちは子供の頃から競技を続けていた経験者で、自分より体格の良い相手に勝利した時の爽快感から夢中になる人が多い。シンプルなルールだからこそ、競技者になればその奥深さが分かるといいます。総勢8人が所属しており、男女で練習を行うことも。男子は「全国大会でAクラス入りを果たすこと」が目標で、全国トップの実力を持つ女子は「女子相撲が広まり、もっと新入部員が増えて欲しい」と、後輩達と切磋琢磨することを望んでいます。

体育会スキー部



池田 深さん
スキー部 主将
情報理工学部4回生



オフシーズンの間は体作りを行うほか、積雪のある国まで出掛けてトレーニングすることも。「個人競技なので各人のトレーニングスタイルがあります」と池田さん。

今からが活動の最盛期

まもなく創部90年を迎え、現在15名いる部員たちは幼少期からスキーを学んできたいわば精鋭。「親もスキーが好きで、3歳からやってます」と主将の池田さん。種目はアルペンスキー、クロスカントリー、モーグルなどがあり、オンシーズンともなれば、多い人は30回ほどのレースに出る。雪のシーズンとなる12月からは練習も本格化し、大学日本一を決める全日本学生スキー選手権に向けて頑張っています。

立命館大学には多くのクラブやサークルがあり、優秀な成績を収めている学生たちが多く、日々切磋琢磨しています。そうした学生たちの今の目標や希望を、代表者が語ってくれました。

（役職・回生は取材当時）



学生防災サークル立命館FAST



他学部サークルと差別化するため、イベントや巡回にはお揃いのキャップを着用。立命館のRをデザインしている。

大学周辺の夜回りなどを通じて、地域の方との交流もあり貴重な体験ができます。



仙田 真也さん
学生防災サークル立命館FAST 代表
法学部3回生

みんなの安全を見守るセンター

立命館FASTは2015年9月に、仙田さんが発起人となり発足したまだ新しい団体。大学はもとより、地域社会の防災をサポートすることを目的としており、大学周辺の夜回りなども毎月実施しています。現在13名の部員が所属し、仙田さんを含む4名は地域の消防団の団員でもあります。市町村に頼まれて地域の防災訓練を支援するなど、幅広い活動を行っており、「全員が救命訓練を受け、修了するのが目標」と、救命救急にも努めています。

多国籍音楽サークル「出前ちんどん」



開店イベントや祭などで演奏を依頼され、あちこちに飛び回る出前ちんどん。ライブの予定などはwebサイトからチェックできる。<http://demaechindon.wixsite.com/demachin>



京都市内の町屋カフェ「ボブソンズカフェ」では、定期的にライブも行っているので、ぜひ見に来てください。

角南 比奈子さん 大塚 万莉子さん
「出前ちんどん」ちんどん 隊長 「出前ちんどん」代表
文学部3回生 文学部3回生



「世の中に役に立たないことなんて
一つもありません。
役に立たない研究もないんです」

知への扉vol.3

文学部 東山 篤規教授

様々な分野の研究者である教員が在籍する立命館大学は、まさに知の宝庫。ここで学生たちは新たな知識を得て、蓄え、発展させていきます。学生たちが学んでいる各分野の専門知識や、その知識が導き出す未来について、教員の方々に語っていただぐシリーズです。



HIGASHIYAMA ATSUKI

1974年大阪市立大学文学部卒業後、同大学院文学研究科・心理学修士課程修了。感覚・知覚の心理学的研究を主なテーマとして数多くの論文を発表し、2002年には日本心理学会・日本心理学会優秀論文賞受賞。

【股のぞき効果】の研究で イグノーベル賞を受賞

東山教授は、今や取材や講演会の依頼が押し寄せる時の人。大阪大学人間科学研究科の足立浩平教授との共同研究された「光学的・身体的変換視野の効果（股のぞき効果）」に関する論文で、第26回イグノーベル賞知覚賞を受賞されました。イグノーベル賞は、人々を笑わせ、そして考えさせる業績を称える賞として知られ、日本人の受賞は10年連続という快挙を更新中。

「でも日本で初めて論文を発表した時は、誰も知らん顔だったのに、賞を受賞した途端に注目されるようになってびっくりします。本当に日本人は外圧に弱い」と苦笑い。10月には立命館大学でもいち早く記念講演会が開催され、多くの人々が聴講に集まりました。

人に分かってもらいたいなら 実証を積み理論武装すべし

世界の人々を楽しませた「股のぞき効果」という研究タイトルを聞いて、関西人なら天の橋立を思い出す人が多いのでは。「股のぞき」とは、上半身を前に倒して、足の間から景色を眺めるもの。こうして視野と上体を逆にすると、視野が平面的に見え、特に遠くの物が小さく接近して見えるという現象を、東山教授たちが解明しました。数多くの実験により、これは網膜像の上下ではなく、上半身の上下の逆転により、視覚世界が変化して生じる現象だと判明したのです。

ちなみに、天の橋立を股のぞきで眺めてみると、松林が浮世絵で見るような橋に見える…はずなのですが、現在では松林が密集し過ぎてそのように見えないことも、教授の講演会で解説され、会場には笑いと驚きの声が上がっていました。講演会でも数多くの実験例が提示され、教授の研究は文学部とは思えないほど実証的で、実験に関わるデータが不可欠です。「僕の専門は心理学で文学部にカテゴライズされていますが、人の知覚や感覚をテーマに研究しているため、仮説を実証するには多くの実験が必要でとても科学的。でも一番長いのは、考えている時間。仮説を証明するには、どういう実験をして実証を集めるのかを考えるんです。人に分かってもらう、説得するには、感情に訴えるのではなく理論武装し、 $1+1=2$ というくらい明確な実証を提示することです。それも、山のようにね」。



記念品は時計の針が砂時計になった掛け時計。「賞状は考える人がこけているし、とにかくふざけて楽しんでいる」と教授も笑う。

青年よ、枠を破れ！ 面白がる心が大切

「僕は、役に立ちそうにないオタクな研究をしている変わった人と言われてきました。でもね、面白いと思うことを学び、突き詰めるべきだと思います。世の中に役に立たないことなんて、ないですよ。注目を浴びたIPS細胞は、役に立つことが誰にでも分かりやすい。でも研究や学問は、分かりやすく役に立つことばかりじゃないはず。いつか、どこかで、誰かに役に立つことがあるかもしれない。でも、役に立つこと、分かりやすいことを目標=枠にしては、視野が狭くなる」と、現在の学生たちの学びの姿にも疑問を感じることも。「学生たちは学問を面白がっている者が少ない。卒業するために研究し、論文を作成する。もっと好きなことをやればいいんです。お手本なんて探さなくていい」。確かに教授の言葉通り、研究が何かの役に立つことは結果であり本質ではありませんが、知らぬ間にその差異を混同しているかもしれません。

「後輩たちに贈る言葉としては、論理的に考える鍛錬をすること。そして、日本だけでなく世界に発表できるように、英語を習得しておくこと。そうすれば、僕みたいに海外で理解してくれる人に会えるチャンスが広がります」。



股のぞきの研究は1996年からスタートし、10年近くデータが取られ2006年に最初の発表が行われたそう。ファイルには教授のメモや、まだコンピューターが普及する前のデータなどが書き記されている。

父母教育後援会の支援が役立っています 家計急変奨学金が 学生たちの未来を守っています

奨学金を受給した学生たちは
懸命に頑張っています

家計急変奨学金は、父母教育後援会が支援を行っている期的なシステムで、予期せぬ家計の急変で退学を余儀なくされないよう、会員が死亡・重度障害に陥った場合は卒業までの学費を、解雇・倒産についても年間学費を給付するという全国的に例のない大幅な拡充を2015年度に行いました。

新たな制度として運用が始まった2015年度は、57名の学生に奨学金を給付、うち46件は保護者の死亡によるものでした。学生は、家計の大黒柱を失った経済的困窮だけでなく、突然の不幸に大きな精神的ダメージを受けます。そのような中、父母教育後援会によるこの支援を受けた学生からは、「たくさんの人に支えられている事をあらためて実感しました」、「自分も人を助けられるような人になれるよう頑張りたい」などの感謝の気持ちや未来への抱負が語られています。

奨学金を給付した57名の学生は全員、現在も在籍し、学生生活を頑張っています。

学ぶ意欲のある学生たちが、安心して修学し社会で活躍するために、大学と父母教育後援会はこれからも見守り続けます。

check

【奨学金受給者の卒業状況】

受給時に4回生だった学生は全員2015年度に卒業しました。また、様々な事由で休学していた3名の学生も全員復学し、2名は2016年度前期に卒業。残りの1名も2016年度後期に卒業予定で、父母教育後援会による奨学金が学生の修学を支援しました。

2015年度後期に卒業した学生 17名

2016年度前期に卒業した学生 2名

2016年度後期に卒業予定で現在在籍中 1名

卒業した学生からの感謝の声

奨学金の援助を得て、無事に大学を卒業し社会で活躍する卒業生たちからは
その支援がいかに心強く支えになったかを伝える札状が数多く届いています。

札状
より

|| 政策科学部卒業 Tさん

父を亡くし寂しく辛い年となり、今までの生活とは大きく変わりました。大きな存在をなくし、今まで両親に当たり前にさせてもらっていたこと、学校に行けることがどれだけありがたいことなのかを痛感した年でもありました。父が営んでいた商売も辞めることになり、一緒に働いていた母も働き場所も失い、55歳という年齢から新しくパートに出て、私もアルバイトをしていますが賄いきれない様々な費用が増大し、この奨学金に出願しました。お陰で多くの方に守られ、学生生活を継続させてもらうことができました。学校生活を支えてくださった方への感謝の気持ちや、社会人に成るまでの決意を忘れることなく、これからも日々努力を重ねていきます。

札状
より

|| 理工学部卒業 Iさん

父が心室細動で急死し、母のパートと自分のアルバイトでの生活を余儀なくされました。しかし、当時は理工学部の卒業研究に追われ、満足にアルバイトが出来ず、母のパートだけで生活することに。さらに、受給していた日本学生支援機構による奨学金の返金が控えており、益々家計が厳しくなることが明白だったため、家計急変奨学金を頼りました。父が亡くなつてからしばらくはなかなか研究も進まず、提出期限までに完成できるか不安でしたが、教授や周りの人の支えにより終えることが出来ました。奨学金の存在を教えてくれた理工学部事務室や学生オフィスの方々、また受理してくださった父母教育後援会には非常に感謝しております。本当にありがとうございました。

コメント

自分のためだけでなく 家族のためにも受給を

この奨学金がなければ、私は修学が出来なかつたかもしれません。現在、IT関連の会社で勤めていますが、社会に出ると立命館大学を卒業しているという意義を感じます。だからこそ、せっかく入学した大学は、奨学金を受給してきちんと卒業するべきだと思います。もし、家計の急変で奨学金を悩んでいる後輩たちがいたら、それは自分だけでなく家族のためもあると思って申請してください。

コメント

修学の希望を捨てず 努力すれば道は開ける

家計の急変という非常事態は、突然やつてきますし、学生である本人も家族も人に話せず悩みます。でも悩んでいる時に、ぜひ思い出して欲しいのは、入学した時の気持ちと将来の自分の夢についてです。修学したいという意思があるなら、決して諦めず、奨学金受給を検討してください。そのためにも、この支援システムが多くの方々に知られ、存続することを望みます。





BKCスポーツ健康コモンズ

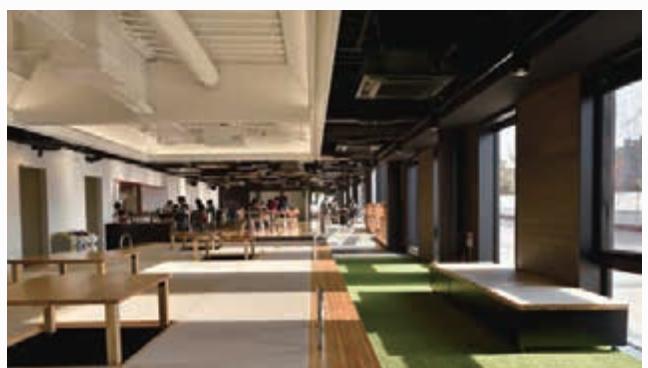
学生の声を活かした新施設をウォッチング

2016年9月に完成したBKCスポーツ健康コモンズは、スポーツ関連設備だけでなく、父母教育後援会の支援により学生の声を活かした「リラックスコモンズ」なども併設。学生生活にどのように活かされているのか、設計の意見交換に参加した山下紗葉さんに案内してもらいました。

お気に入りの椅子や畳のスペースで スポーツの後にリラックス

BKCスポーツ健康コモンズは、アリーナやトレーニングルーム、本学初の屋内と屋外プールなども備え、スポーツや健康づくりに親しめる施設として開設。

さらに特徴的なのが、学生の意見を取り入れた1階にあるリラックスコモンズ。このスペースは約20名の学生有志がワークショップで意見を出し合い、それらを反映して設計されました。メンバーだった山下さんは、「足を伸ばして休憩したいと思った時、畳のスペースがイメージに合いました。リラックスするために、椅子選びにもこだわっていて、各人がお気に入りの椅子でくつろげるよう、いろいろなデザインの椅子を配置しています」。伸び伸びとくつろげるスペースは学生たちに人気で、休憩時間にはゴロリと横になる男子学生も。奥のテーブル席では、グループで学習している学生たちも多く、リラックスしながら勉強に励んでいる様子がうかがえました。



山下 紗葉さん
理工学部 建築都市デザイン学科 4回生



素材やデザインも様々な椅子が並んでいます。私が好きなのは、手前にある古い学校の椅子のようなデザインの物。中にはデザイナーの名作椅子もあります。

手前が畳のスペース。テーブルは掘りごたつ風の可動式で、必要な時には床面をフラットにすることができます。奥にはテーブル席やソファ席もあります。今後はカフェがオープンする予定で楽しみです。

これは可動式の畳の椅子。好きなところでくっつけてスペースを作ることができます。

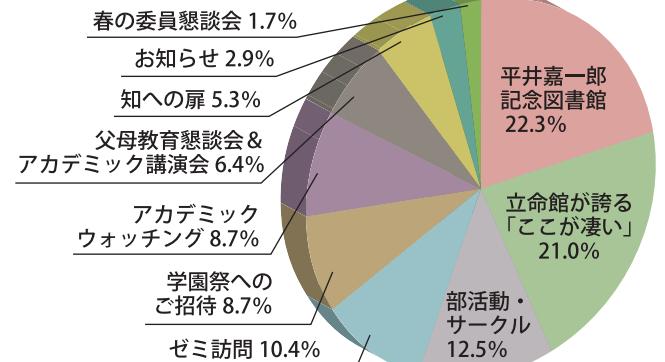


皆様のお声が誌面作りに役立っています

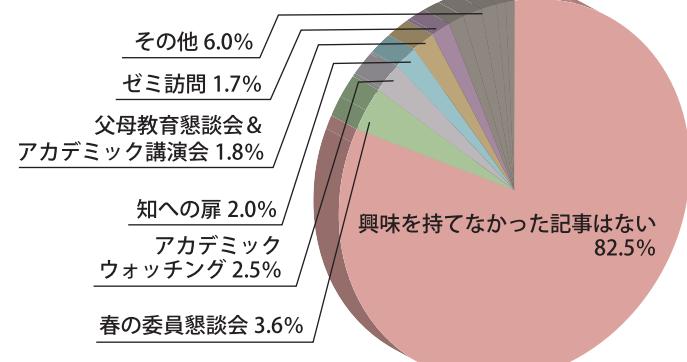
父母教育後援会だよりは年3回お送りしており、毎号アンケートにご協力いただいている。2016年度夏号でいただいたアンケートの結果やご意見を紹介します。

Q. 夏号の中で、興味を持った記事、興味を持てなかった記事を教えてください。

【興味を持った記事】

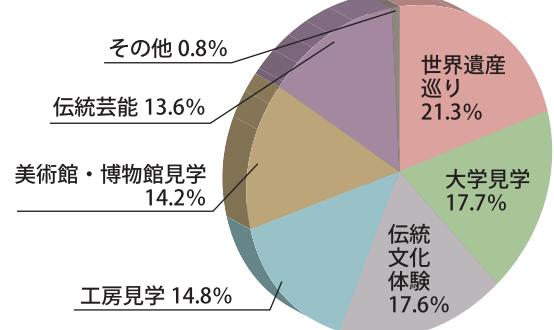
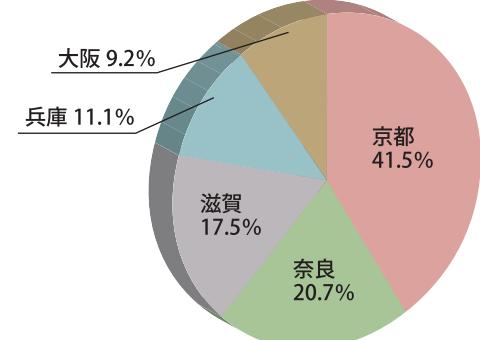


【興味を持てなかった記事】



4月に開設した平井嘉一郎記念図書館は、多くの方から素晴らしいとのお声をいただきました。父母教育後援会会員の保護者の皆さんもぜひご利用ください。

Q. アカデミックウォッチングで訪れてみたい都道府県は？ Q. アカデミックウォッチングでの興味のあるテーマは何ですか？



【皆さまからのお声】

7月に古本募金をさせてもらいました。ささやかな金額でしたががお役に立て嬉しく、妹にも勧めました。
(大阪、産社2回生、女)

アートリサーチセンターは素晴らしいと思います。自分の子どもの大学が文化的なことに貢献しているのを誇りに思います。
(広島、映像3回生、女)

新しい図書館をどんどん活用してほしいです。羨ましくたまりません。私が学びたいくらい!
(宮崎、文4回生、男)

毎回楽しみに読んでいます。立派な図書館が出来上がったのですね。せひととも次に京都へ行ったら利用してみたいと思いました。
(静岡、政策3回生、男)

今回立命館CLUBに登録いたしましたので、会報だけでもメルマガが届くのも楽しみです。
(京都、映像1回生、女)

毎年2回は息子のところに行き、京都観光を楽しんでいます。日本の歴史や文化に改めて興味を持ち、後援会だよりで知識を得てこれからも学んでいきたいと思っています。
(滋賀、経済3回生、男)

自分の子どもの写真が写っていればと思うのですが、人が多いから難しいですね。
(京都、理工3回生、男)

ゼミナール訪問楽しみにしています。親世代の大学時代とゼミナールで取り上げる内容に変化があるのだなあ、また私達も勉強してみたい内容だなあと学生達が羨しくも思います。
(長野、産社1回生、男)

たくさんのご意見、ありがとうございました。



information

父母教育後援会
からのお知らせ

学生たちの安全を見守る 防犯カメラが稼働

大学、茨木市、警察が協力しながら進められていた防犯対策の一環として、キャンパス南側の高架橋に防犯カメラが設置されました。こうした学生たちの通学の安全を見守る体制整備にも、父母教育後援会は支援を行っております。



一番死角になりやすい通路に向けてカメラを設置。
警察にも協力を要請し、学生たちの通学路周辺の見回りが強化されている。

2016年度卒業式のご案内



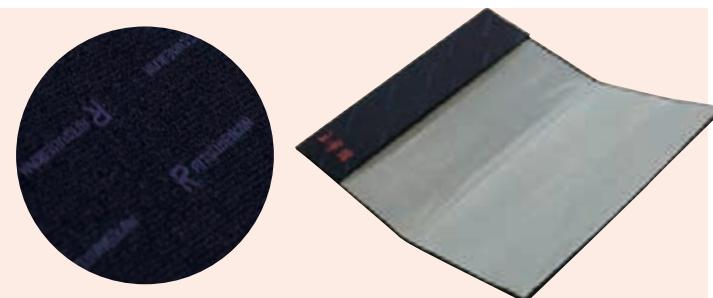
	2017年3月20日(月・祝)	2017年3月21日(火)	2017年3月22日(水)
キャンパス	大阪いばらきキャンパス	衣笠キャンパス	びわこ・くさつキャンパス
式典会場	グランドホール(B棟2階)	京都衣笠体育館	BKCジム
家族会場(中継)	372教室(C棟3階)	以学館1・2号ホール	式典会場へお入りいただけます
対象学部	10:00~ 経営学部 12:00~ 政策科学部	10:00~ 法学部、国際関係学部 12:30~ 産業社会学部、映像学部 14:30~ 文学部	10:00~ 理工学部 12:30~ 情報理工学部、薬学部、生命科学部 14:30~ 経済学部、スポーツ健康科学部

※衣笠キャンパス、大阪いばらきキャンパスでは、ご家族の方は「家族会場」へご案内いたします。家族会場では、式典の様子を映像でご覧いただけます。予めご了承ください。
※式典は、約1時間の予定です。

※本学には駐車場はございませんので、各キャンパスへは、公共交通機関でお越しください。
※キャンパス内は、全面禁煙です。
※キャンパス周辺での路上喫煙もご遠慮ください。

父母教育後援会から卒業生へ

本校から社会へと旅立つ学生たちに、父母教育後援会より毎年記念品を贈呈しています。今年度は、京都・西陣織の袱紗で、生地にRITSUMEIKANの文字が織りこまれています。



check

3月中旬に、卒業予定者の会員の方へ「入会のご案内」を郵送でお送りします。入会をご希望の方は、期日までに申込書をご提出の上、会費をお振込ください。

[年会費] 正会員:10,000円 準会員:3,000円

お子様が卒業されたら
卒業生父母の会にご入会ください

父母教育後援会では、「子供が卒業した後も、立命館大学とともに、学生を応援したい」、「自分自身も立命館大学のアカデミックな魅力に触れてみたい」という多くの声を受け、[卒業生父母の会]を設立しました。会員は正会員と準会員とし、正会員の方はアカデミックウォッキングや講演会へのご参加や、図書館や国際平和ミュージアムの無料利用が可能です。また全会員の方には会報「父母教育後援会だより」をお送りしています。学生や卒業生だけでなく、学生の保護者の皆さんも立命館ファミリーの一員として、お子様の卒業後には、卒業生父母の会にぜひご入会いただき、頑張る学生たちへの応援をお願いいたします。

古本募金へのご協力をお願いします!



古 本 募 金

被災地支援に向け、2014年度から始まった古本募金は、今も多くの方々のご協力に支えられ活動が続いているまます。現在、913件、80,728冊の古本募金が集まり、募金総額は1,285,302円(10月末現在)となり、立命館災害復興支援室が取り組む復興支援活動に役立てています。

古本募金に必要な古本の引き取りは指定業者が行うため簡単です。父母教育後援会会員でなくても参加可能なので、ご近所やお知り合いの方々もお誘いいただき、多くの募金が集まるようご協力をお願いします。

申し込み方法
父母教育後援会のwebサイトより、古本募金のページから申し込み用紙をダウンロードしてください。
<http://www.ritsumei-fubo.com>
→ 取り組みについて → 古本募金

校友会からのご案内

~3回生以上の方へ 校友会から会報「りつめい」を贈呈~

今回、3回生以上(薬学部は5回生以上)の会員の方には、立命館大学校友会が発刊している会報「りつめい」を同封しました。校友会は約34万名の立命館大学卒業生で構成されており、地域や勤務先ごと、学部・学科やクラブ・サークル単位など、世代を超えたグループが多数あります。また、20代校友の間では異業種交流会やスキルアップ企画などが盛んで、年齢が近い校友が集まり卒業後に新たな人間関係を築いています。

このように、お子様が立命館大学を卒業された後には、大きなネットワークがあり、そこでさらに立命館と繋がり続け、活躍されることでしょう。ぜひ会報「りつめい」で、立命館の校友会をのぞいてみてください。

立命館大学校友会HP <http://alumni.ritsumei.jp/>
(会報「りつめい」バックナンバーもHPから閲覧できます)